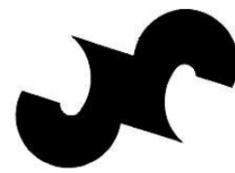


工業部会通信



(発行) かながわ経済新聞合同会社
〒252-0239 相模原市中央区中央3-12-3
商工会館本館1階
※プリントしてご自由にお読みください。

かながわ経済新聞
KANAKEI

KIZUNAプロジェクト 垣根を超え 交流会開催

異業種35人が参加

工業部会KIZUNAプロジェクト（鈴木道雄委員長・永進テクノ社長）は3月15日、市立産業会館で会員交流大会を開催した。業界の垣根を越え、仕事や趣味で交流できる仲間を得るきっかけ作りや、会員間のビジネスチャンス拡大などを目的として企画された。

仕事や趣味の話も

当日は、ものづくり企業を中心に35人が出席。商工会議所の会員ではない企業も参加も目立っていた。鈴木委員長は「ここ



多数の参加者があったKIZUNAの交流会

3年は（コロナ禍で）リアルな会員交流会をなかなか実施できなかったため、この様な場を設けられうれしく思う。今後、会員間の交流のほか、今まで参加できていない会員・非会員の事業への参加をお願いしたいと思

相模原、川崎の企業が交流

工業部会有志が参加

相模原商工会議所の工業部会に所属する有志企業と、川崎市高津区を中心に活動するものづくり集団「タカツクラフト」メンバー企業との交流会が3月14日、相模原市内で開かれた。両地域の有志企業により企画され、相模原商工会議所と川崎市も協力した。相模原と高津区は、距離的にも近いながらも工業系企業が交流する機



マーク電子の拠点も見学

会がなかったため、非公式ながらも初めて企画されたという。相模原からは9社、川崎から8社が参加。一行は、機械加工のコバヤシ精密工業（相模原市南区）と、医療機器製造のマーク電子（同市緑区）を見学。その後、交流会が催された。交流会では、参加企業たちによる自己紹介やPRの時間が設けられた。



コバヤシ精密を見学する参加者

コバヤシ精密など見学

ものづくり系企業が中心とあって、中には今後の仕事連携の話も出ていた。今回企画した企業の1社であるコバヤシ精密の小林昌純社長は「神奈川の工業はわれわれが担うという気持ちを持って、今後交流していきたい。将来は横浜も巻き込みたい」と語っていた。

中小企業庁 旧サポイン事業 4月末まで公募 研究開発を支援

経済産業省・中小企業庁は、中小企業が大学・公設試などと連携して実施する研究開発を最大3年間支援する「成長型中小企業等研究開発支援事業」（旧サポイン事業）の公募を始めている。公募期間は4月20日まで。補助率は中小企業が3分の2以内、大学・公設試は定額。補助上限額は「通常枠」が単年度あたり4500万円以下、2年間合計で7500万円以下、3年間合計で9750万円以下。「出資獲得枠」はそれぞれ1億円以下、2億円以下、3億円以下となっている。

インボイス 対応でセミナー

工業部会

工業部会は、3月27日の午後3時〜同4時半まで、「現場のための実務に役立つインボイスセミナー」および「令和5年度税制改正ポイント解説セミナー」と題したオンラインセミナーを開催する。相模原商工会議所の会員限定。参加無料。適格請求書等保存方式（インボイス制度）導入に伴い、対応しなければならぬ事業者の疑問や不安を解消するべく企画した。講師には、東京地方税理士会相模原支部の所属税理士である眞崎正剛氏を招く。

さあ、5年後の未来を見に行こう。



新規会員募集中 近未来技術研究会

相模原商工会議所工業部会